

とち製菓 農林水産大臣賞を受賞 ハラール対応和菓子を輸出販売。草の根技術協力がきっかけに



3月15日に行われた表彰式典で、表彰状を手にしたとち製菓社長の駒野裕之さん。

和菓子製造・販売の「とち製菓」(北海道中札内村)が、「平成30年度輸出に取組む優良事業者表彰」の農林水産大臣賞を受賞した。同賞は、農林水産物・食品の輸出に関わる優れた事業者を表彰するもの。ハラール認証*を取得した和菓子を輸出販売する事業が評価されて今回の受賞に至った。

とち製菓は、JICAが2014年に始めたタイとマレーシアでの草の根技術協力事業に参加していた。食の地域ブランドの確立を目指す両国と、海外需要の取り込みを図る十勝地域の中小企業とをJICAが仲立ちし、各地域の特性を生かしたビジネス展開が試みられた。

* イスラム教の戒律に沿う食料品に与えられる。とち製菓はマレーシア政府認証機関(JAKIM)のハラール認証を取得した。

ニュース深掘り! とともに栄える十勝とタイ、マレーシア

地域の企業の皆さまが今後も新たなビジネスに挑戦し、途上国と日本の友好の架け橋となることを願い、JICAはこれからもお手伝いしていきます。

今回受賞となったとち製菓社長の駒野さんは、最初のマレーシア渡航から約5年間、毎月のように現地に通い続けています。十勝の経済振興につながるさまざまな成果が上がっているのは、参加企業がビジネスマッチング会などの機会を得た出会いを企業努力で最大限に生かした結果だと思っています。

草の根技術協力事業では、製造・販売の総合的なノウハウを持つ十勝地域の企業が相手国に対する技術指導などを円滑に行えるように、人材の派遣や研修をJICAがサポートしました。また、実施団体の帯広商工会議所が持つ豊富なネットワークと現地ニーズをつなぐビジネスマッチング会やセミナーを開催し、十勝企業の魅力を現地の人々にアピールしてきました。

タイやマレーシアの食産業では、地域ブランドの周知や消費者ニーズへの対応など、競争力の強化が課題となっています。一方、十勝・帯広地域は「食」と「農林漁業」を柱とした地域産業政策「フードバレーとカチ」を推進しており、地域活性化に加えて海外やインバウンド市場の獲得に取り組んできました。

JICA
北海道センター
(帯広)代表
沢田博美
さわだ・ひろみ
貿易会社勤務を経て、1999年入構。プロジェクト専門家として中国に駐在。その後地球環境部、モンゴル事務所などを経て現職。



JICA HEADLINE NEWS

- 3月12日 | ▶ **ベトナムのサイバーセキュリティ確保に技術協力**
討議議事録に署名。ベトナム政府のサイバー攻撃耐性向上に貢献。
- 3月12日 | ▶ **日本の近現代の開発の歩みを伝える番組を放送大学学園と共同制作**
放送大学学園と連携協定を締結。日本で学ぶ外国人や海外留学を目指す日本人などに向けて提供。
- 3月11日 | ▶ **スリランカの都市交通システムを円借款により整備**
高架鉄道の整備で首都コロomboの渋滞緩和を目指す。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>